

# 花矢図書館だより

2020

7



大館市立花矢図書館

Tel・Fax 0186-46-1557

火～金：9:00～19:00

土・日：9:00～17:00

## 新着図書

### 〔一般書〕

- ・なんのために学ぶのか (池上 彰)
- ・マンガでわかる残念な人の仕事の習慣
- ・一城一話55の物語 (松平 定知)
- ・こむら返りは食事で治せる！
- ・図解眠れなくなるほど面白い自律神経の話
- ・十津川警部「狂気」 (西村 京太郎)
- ・銀花の蔵 (遠田 潤子)
- ・駆け入りの寺 (澤田 瞳子)
- ・告解 (薬丸 岳)
- ・四神の旗 (馳 星周)
- ・あの日の交換日記 (辻堂 ゆめ)
- ・ピエタとトランジ (藤野 可織)
- ・イエロー・サブマリン (小路 幸也)
- ・江戸の夢びらき (松井 今朝子)
- ・逆ソクラテス (伊坂 幸太郎)
- ・法の雨 (下村 敦史)
- ・患者になった名医たちの選択 (塚崎 朝子) 他

### 〔児童／中学生〕

- ・実験対決 ウイルスと免疫の対決
- ・昔の道具2 学校・まち・仕事
- ・ちょきんぱこのたびやすみ (村上 しいこ)
- ・はっけよーい はじめてえほん (絵本)
- ・アンパンマンとカレンのもり (絵本) 他

### 今月の展示

大人向け スポーツを楽しもう！  
児童向け たなばた

## 第33回「三島由紀夫・山本周五郎賞」 候補作品決定

### 「三島由紀夫賞」候補作品

- 『土に贖う』 河崎 秋子
- 『かか』 宇佐見 りん
- 『デッドライン』 千葉 雅也
- 『pray human』 崔 実
- 『首里の馬』 高山 羽根子

### 「山本周五郎賞」候補作品

- 『夜が暗いとはかぎらない』 寺地 はるな
- 『ボダ子』 赤松 利市
- 『展望塔のラプンツェル』 宇佐美 まこと
- 『ザ・ロイヤルファミリー』 早見 和真
- 『暴虎の牙』 柚月 裕子

5月選考会が、9月に延期となりました。

## ◆おすすめ図書◆

『輪舞曲(ロンド)』 朝井 まかて 著  
舞台上に立ちたい一心で故郷・津和野から夫と子を捨てて上京。大正の劇壇に輝く女優となるもキャリア絶頂で世を去った伝説の女優・伊澤蘭香。野心を貫いた華の生涯を3人の愛人と息子の目から描かれています。

『まいごのしにがみ』 いとう みく 作  
「もし、あのもしー」

ぼくに道をたずねてきたおじさんは死神だという。なにやらあやしげな死神おじさんは、今の仕事が自分に向いていないと話をはじめが…。

やさしい死神と「ぼく」のふれあいを通し、「自分の好きなこと・得意なこと」を考えるきっかけをあたえてくれる絵本です。

## 7月あれこれ 土用のうなぎ



立春・立夏・立秋・立冬直前の約18日間のことを「土用」といい、昔の暦で日にちを十二支で数えていました。立秋前の18日間が夏の土用。

今年の丑の日は、7月21日(一の丑)と8月2日(二の丑)で2回あります。

奈良時代『万葉集』に

「石麻呂に我物申す 夏痩せに良し  
といふものぞ 鰻(むなぎ)獲り召せ」

と、大伴家持が友にうなぎを勧めている句があります。昔からうなぎを食べて栄養を摂るという考えがあったようです。実際、ビタミンAやビタミンB群など、疲労回復や食欲増進に効果があり、夏バテ防止にはピッタリですね。

夏の土用にうなぎを食べる習慣が一般に広まったのは、江戸時代だとか。

一説には、うなぎが売れなくて困っていたうなぎ屋が、平賀源内(蘭学者)に相談したところ「丑の日にちなんで『う』で始まる食べ物を食べると夏負けしない」という風習があったことから、

「本日、丑の日という貼り紙をしなさい」とアドバイス、その貼り紙の効果でうなぎ屋は大繁盛したそうです。